



Change! 2022 ニュース

No. 22

Change! 2022 推進委員会 2021. 4. 15 発行

▼ 会員増強に思う

「社会の変化と Change! 2022」

元東日本区理事

清水 弘一（石巻広域）



東日本大震災から 10 年が経った。最大の被災地石巻地方では、約 4,000 人ももの尊い命が失われた。この間私たちは多くのボランティアを受け入れたが、ワイズメンズクラブという組織の存在や仲間からの励ましが、今日までの活動の

支えとなった。

東日本大震災と新型コロナ禍は、私たちの生活スタイルを大きく変えようとしています。Change! 2022 は私たちに突き付けられた最後のチャンス(Chance)かもしれません。何故ならば、成長一辺倒で歩んで来た私たちの生活は、二つの現象もあって価値観の変化が起こり、社会は大きく変わろうとしているからです。まもなく100周年を迎えようとしているワイズメンズクラブ国際協会とそして東日本区は、今まで社会からその存在価値を認められてきたが、現在、会員減少という将来への危機に直面しています。これらの事は私たち一人ひとりのワイズマンに突き付けられた課題であり、「Change! 2022」を推進する目的だと思います。

そのためには、先ず自分自身が変わり行動することが、しいては組織が生き残る道でもあります。

ここでこれからの会員増強についての一方策、課題について何点か述べたいと思います。

▼ 高齢化はそんなに悪い事ではない。

高齢化は社会現象の一つですが、人生経験豊富で知識の深さ、人脈の広さなど、体力面が衰えてもまだまだ貢献されていることは周知の事実です。新陳代謝も必要ですが、プラス思考で考えるべきです。

▼ 他人に勧めるクラブや組織でありたい。

メンバーであれば、誰しもが入会させたい知人や友人

を持っていると思う。クラブの大小はあっても、クラブの特徴を生かした会員活動を展開するために、区や部が側面支援者となり、YMCA の協力も得ながら複数クラブで CS 事業を展開する。人が集まるところには必ず会員増強のヒントがあると思います。

▼ 実施済みのアンケートの結果を生かそう。

今まで実施したクラブ向け・個人向け EMC アンケートには、クラブや個人の悩みや意見が多く出されています。すでに結果の分析等は行われているが、具体的な施策に反映されているのだろうか？ 例えば、少人数クラブへの支援、クラブや部の組織や再編問題、会費の問題、区や部の行事のあり方、ワイズメンズクラブの認知度やイメージアップ作戦など、達成目標を設定しながら進めて行きたい。

▼ 東日本区独自の会員増強キャンペーンを実施する。

Change! 2022 推進委員会ではアクションプランを作成し、2022 年に向けて会員増員目標数など様々な項目を提唱しています。目標設定時期の 2022 年 12 月まで約 20 か月しかありませんが、この間、期間を定めて会員増強のためのキャンペーンを実施する。

入会費免除や会費の減免などの特典制度を検討し、また外向きの区広報活動に力を注ぎ、Facebook や YouTube などを利用し定期的に何度も発信する。

▼ YMCAとの関係をより強くし、スタッフや関係者の入会を勧める。

CS 事業や TOF 事業等で YMCA との協働化を、区・部・クラブレベルで推進するとともに、スタッフやプログラム会員との交流を盛んにし、入会のための特典制度を検討する。

▼ 法人化への道とワイズのイメージアップ作戦

現在、東日本区では今年度内の実現を目指して法人化への道を進行中です。実現の暁には、ワイズのミッションを社会に発信するとともに、100 周年を契機に認知度アップ作戦を展開していければと思います。

(※編集部注 “Change! 2022” は清水弘一さんが名付け親で、東京での第 22 回東日本区大会で表彰されました。)

《 清水弘一さんのプロフィール 》

1941年5月	東京生まれ、終戦の年に宮城県移住
1981年12月	仙台青葉城クラブ入会
1986-1987年	仙台青葉城クラブ会長
1993-1994年	日本区 EMC 事業主任
2008-2009年	第12代東日本区理事
2010年8月	横浜国際大会プログラム委員長
2016年5月	石巻広域クラブチャーターメンバー
2020-2021年	クラブ書記、仙台YMCA常議員会議長

▼「関東東部EMCを考える集い」報告

「EMCを考える集い」を開催して

関東東部書記(開催準備委員)

布上 征一郎 (東京グリーン)



日時:2021年3月28日
(日) 15:00~17:00

Zoom 会議

参加者:50名(関東東部
40名+他部10名)

プログラムに沿って皆様のご挨拶、発言、報告をダイジェストではありますが、記載いたします。

・定刻に開会宣言/参加者紹介 司会:布上征一郎

1. 開会挨拶:柿沼 敬喜 関東東部部長(東京グリーン)



副題として～E:笑顔で、M:もっと、
C:クラブ活動を～と掲げました。

昨年12月20日から下準備会、1月以降数度の会合を持ち、8名の準備委員によって進められました。

その中で、会の形式を若いワイズ3名に対するインタビューと、ベテランワイズ3名のEMC活動の報告を柱として構成することになりました。皆様のご発言を楽しみにしております。

・挨拶:板村哲也 東日本区理事(東京武蔵野多摩)

・挨拶:栗本治郎 Change! 2022 推進委員長(熱海)

2. なぜ会員増強が必要か Change! 2022 推進委員会の働き 藤井 寛敏 推進委員(東京江東)



東日本区の現状は、当初の1,246名から837名ですと30%以上減少しています。Change! 2022のチェンジは一人ひとりの心がワイズの会員増強に向かうべく「変わろう」と言う事であり、

クラブ員の高齢化、老齢化を負の言い訳にすることなく、仲間を増やすよう行動することを願っています。

3. 関東東部における会員増強の現状と目標

浅見 隆夫 EMC 事業主査(東京グリーン)



関東東部昨年の7月は10クラブ、132名、今年1月には11クラブ、137名でした。3月で3名の減があり、134名になりました。本来会員増強として課せられた人数は163名です。従ってあと29名増がノルマ、目標となります。

4. 発表及び質疑応答 <2名のコーディネーターで進行>

<1>会員増強(M & C):大澤 和子 次期部長(所沢)

1) 多くの新会員を紹介したワイズ

堀江 和広(東京ベイサイド・担当主事)



YMCAとしてワイズが必要と考えている地域の核として働きたいとの思いから、幼稚園の園長と言う立場で、園の行事に参加、協力していただける保護者の勧誘をしてきました。

東京江東クラブでは昔から地元の方々の交流が盛んで、その活動に溶け込み人脈を作ってきました。一方、東京ベイサイドクラブでは新しい地域として「しののめ」の故郷をつくる」という思いで、『子供たちのために』というコンセプトを明らかにして、ワイズ活動だけではなく、ほかの団体ともコラボレーションして動き、参加する父兄とも交流を深めてきました。結果として新クラブの誕生に繋がりました。

2) 最近入会し、積極的に行動しているワイズ

柳井 恵(千葉・副会長)



2019年4月に入会しました。クラブの印象も良く、入ってよかったです。女性ワイズが職業を持つ女性への入会勧誘については賛成します。仕事と家庭とは全く違う次元の経験をしていただくことは貴重です。また、YMCAのリーダーたちにご高齢のワイズメンが経験談を語って聞かせることは必要だと思います。若者の知識獲得ツールであるSNSとはとても比較にならない深いものが得られると思います。

外部の方の勧誘では、YMCAやワイズの話は後回しにして目の前のイベントに夢中になり、共感を得て、実はワイズでも似たような活動をしているという話から始めて、一度参加してみませんか・・・と説得するようにします。その後、「ワイズメンズクラブ」という「ワード」を知らせるだけでもいいと考えています。そのあとにクラブ活動の良さを伝えることですね。

3) 元気な交流が目立つワイズ

樋口 順英(東京グリーン・部ユース事業主査)



ワイズ歴は 7 年程度です。来期は「クラブ会長」を仰せつかり緊張しております。元々、神田川船の会でリバーガイドをしたくてサポーターに参加ののち、東京グリーンクラブへの入会と言う流れに乗ってしまいました。当初はクラブの表玄関のシキイが高く感じていましたが、ブリテンで趣味のコーナーを作って下さったり、温かくしていただきました。

自宅に近い東京西クラブの WHO に参加したり、他のクラブの例会に出て「卓話」を伺ったり、また、逆に「音楽」の卓話を引き受けたり、そのような動きが目立つのでしょうか。これからももっと他クラブとの交流を増やして、コラボ活動を進めてはと考えています。

ベテラン(高齢者)と若者がフラットに会話できるように、クラブの運営を考えたらいいと思います。各クラブの CS 事業を通じて外部の人、協調性のある、性格の良い人材を探し、イベントから勧誘することが一番ではないかと考えます。

<2>新クラブ設立(E):長尾 昌男 部会計(千葉ウエスト)

1) 千葉ウエストクラブ設立について、何が設立に導いたか

高田 一彦(千葉ウエスト・会長)



2011 年横浜から船橋へ転居し、千葉クラブへ転入しました。自宅の近くの船橋教会に通うことになり、その教会の中に YMCA の小さな看板があって、今ではそのランチもほとんど活動していないと聞いた。また嘗ては船橋クラブもあったが、それも今では無くなっていた。そこで、この船橋に再度クラブを教会の仲間と作らねばという思いに駆られたのです。

2018 年に設立準備委員会、以後 4 回以上の会合と設立準備会・準備例会を経て 2020 年 7 月に設立総会、10 月にチャーターに辿りついたわけです。

メンバーの勧誘では過去の勤務先の同僚と巡り合ったり、応援団の千葉クラブの幹部と大学が同じ人がいたり、人間関係でも恵まれていました。スタート会員 8 名でも、最後は一気にがむしゃらに進めたことが良かったと思います。

2) 新クラブ設立への鼓動

宮田 康男(茨城・茨城 YMCA 総主事)



茨城クラブが設立 15 年を経たことで、そろそろ子供が出来てもいいよね、との思いから、どこか牛久あたりに新クラブを、と発言したのが金丸満雄さん、藤井寛敏さんあたりの耳に入り、今回の「EMC を考える集い」で発言してほしいという事態になったものです。

茨城 YMCA の牛久センターも 6 年目に入るという事で、何とか 15 年前の茨城クラブ設立時を思い起こして手順を踏んで、茨城クラブ、茨城 YMCA、関東東部の皆様のお力を借りて進めていければと考えています。

3) 新クラブ設立へ向けて

金丸 満雄(東京ひがし・関東東部 Extension 委員長)



これまで茨城クラブ、東京ベイサイドクラブ、千葉ウエストクラブなどの設立にかかわってまいりました。

昨年に続き、今度は茨城県牛久地区で動きがあるという事。新ルール 5 名でクラブ設立可能と言う好条件を生かし、設立を目指し、そして拡大、関東東部の総力を挙げて推進したいと思えます。周到な準備と人脈作り、過去の経験を生かしてぜひ、皆で快挙を達成しましょう。

5. <まとめ>

藤井 寛敏 Change! 2022 推進委員(東京江東)

皆様、大変有意義なお話を伺いました。会員増強では、次の3つの事を用意する必要があると思えます。

1. 新会員を受け入れるクラブの充実。即ち、魅力のある事業の立上げ。
2. 組織とクラブ広報の充実、WEB、SNS の活用、QR コードの活用も結構です。
3. 積極的な声掛けによる会員増強です。充実したバックボーンさえあれば、声掛けは今も昔もリクルートの王道だと思っております。

本日は大勢の皆様にご参加をいただき、ありがとうございました。

【写真下=EMCを考える集いに参加された皆さん】



▼ アジア太平洋地域EMC研修会 開催報告

「 EMC実践の基本 」

アジア太平洋地域直前会長

田中 博之 (東京多摩みなみ)



2021年3月13日(土)、日本時間の11時半から約1時間半、アジア太平洋地域のリーダーシップトレーニングの一環として「The Bolts & Nuts of Extension & Membership Conservation」(EMC実践の基本)のタイトルで、

EMCに焦点を置いた研修会をZoomにて開催しました。アジア太平洋地域各国・区からの参加者総数は74名で、内、東日本区からは30名、西日本区からは11名の参加でした。日-英の同時通訳が提供され、距離、言葉の壁を乗り越えて開催されました。

メインのプログラムは、甲府21クラブの野々垣健五さんによる同クラブの会員増強の成功事例についての講演(詳細は別記)、および国際LTOD(Leadership Training & Organization Development)事業主任のエドワード・オンさん(元アジア太平洋地域会長、シンガポールアルファクラブ)によるクラブの強化、活性化、新入会員獲得に不可欠な「効果的なリーダーシップ」についての講演でした。両講演とも具体的でわかり易く、参加者には、自分たちの国、区でのEMCの取り組み強化に向けて大きな刺激、参考となったと思います。

アジア太平洋地域では、コロナ禍によって思いがけず身近になったZoomをこれからも活用して、EMCを始めとして様々な研修、情報交換の場を提供していきます。

「 講演 “会員3倍増への実践” 」

あずさ部会員増強事業主査

野々垣 健五 (甲府21)



2021年3月13日に行われた研修会は、田中博之さん、利根川恵子さんの同時通訳により、私の拙い発表を終えることが出来ました。感謝します。

その中で甲府21の6年間に亘る軌跡が描かれています。6年前には16名、そこから6年間で43名に、4月には46名に、本年度中にはおそらく3倍の48名になるでしょう。新型コロナウイルス禍は、人間のつながりを新しい手段をとる様に向かせたり、断ち切らせたりしています。

甲府という小さなコミュニティーはある面、“軽いジャブ的なお付き合い”が豊かに出来るエリアでもあります。

冷ややかに切り離されそうな人間関係を、以下の[3]に記述する流れでつながり留め置くことが出来る町です。

YMCAに活発になってもらい、それをワイズが楽しく支援し、仲間を増やす。そうするとYMCAも活発化するという好循環になります。

私は仲間を増やすのには三つの要素があり、この三つがそれぞれ絡み合っていると思います。

- [1] YMCAを楽しくサポートしよう。その基底に「C」があるのです。これが他のボランティアと違うことをしっかり認識しよう。
- [2] ワイズに入って少しは仕事につながったり、客を紹介してもらったりと、日常の活性化へとつながり、気持ちの退化を防止します。
- [3] 趣味～近所～知人～先輩～取引先～同じ自治会～親戚～同じ教会、色々なワードでの要素を取り入れ、人と人との「つながり」「絆」、これが人生なんだと教えられる。

この三つの要素を色々に絡ませたりしていくと、楽しいワイズメンズのクラブになっていきます。そして「町の一目に一人」のワイズメンを生み出したいものです。

【写真下=Zoomでの研修会の集合写真】

【野々垣さんの講演に使われた22枚のスライドから】



▼ 新入会員をご紹介します

会員増強事業主任 伊藤 幾夫 (東京多摩みなみ)

3月には、下記の方が入会されました。(敬称略)

No. 新入会者 (クラブ名) 紹介者

1. 赤沢 奈美 (甲府21) 萩原 三鈴
2. シンティア工藤ラザロ (もりおか) 濱塚 有史